

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



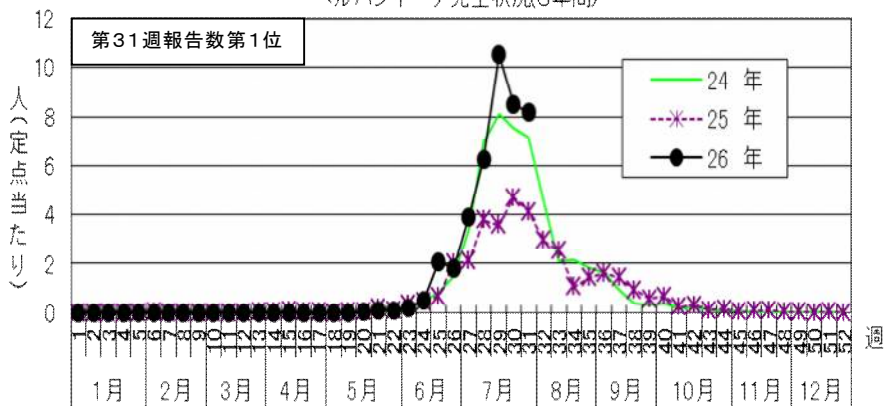
平成26年7月28日（月）～平成26年8月3日（日）【平成26年第31週】の感染症発生状況

第31週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)手足口病でした。ヘルパンギーナは定点当たり8.18人と前週（8.52）より患者報告数は減少しましたが、依然として流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回っています。

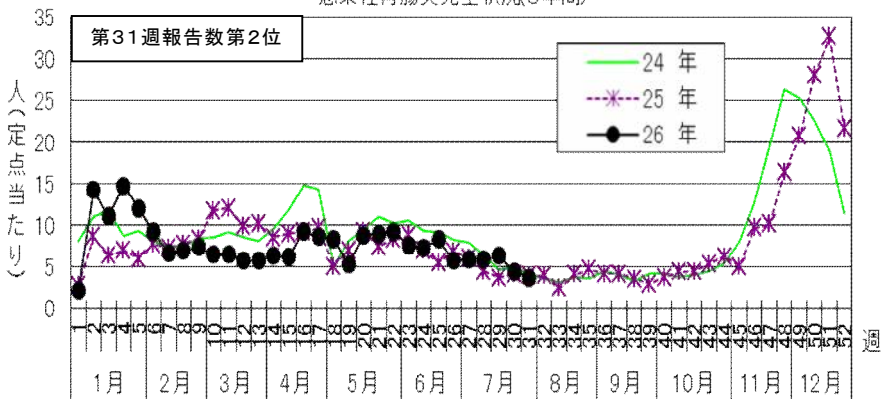
感染性胃腸炎は定点当たり3.67人と前週（4.39）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

平成11年の届出制度開始以降、市内で初めて日本紅斑熱の届出がありました。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)

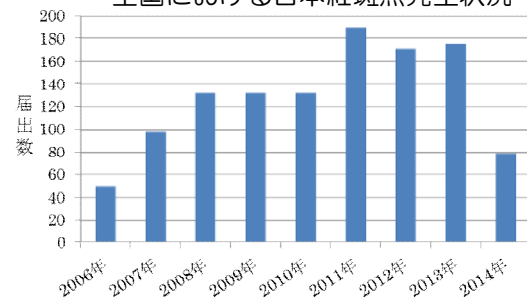


マダニが媒介する感染症に注意！

リケッチアという病原体をもつマダニ*に咬まれることで感染する病気の一つに日本紅斑熱があります。咬まれてから2～8日で発症し、通常はヒトからヒトへ感染することはありません。マダニに咬まれた後に発熱・発疹・頭痛・倦怠感などの症状がみられた場合には、日本紅斑熱やその他のダニ媒介性感染症の可能性があるので、医療機関で診察を受けてください。早期診断・早期治療が重要です。

*マダニ：ダニの一種で、山野、畑、あぜ道、民家の裏庭や裏山に生息しています。

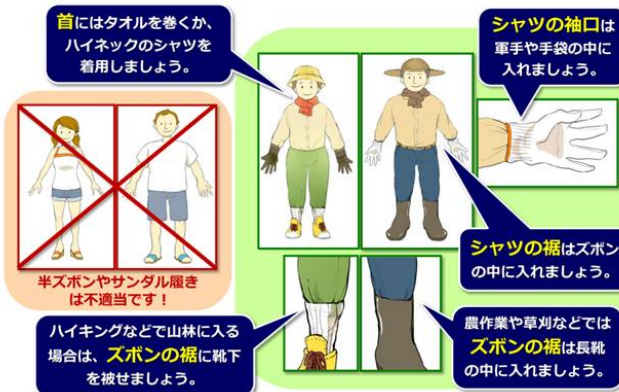
全国における日本紅斑熱発生状況



※2014年は7月27日診断分まで集計

マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！



重症熱性血小板減少症候群（SFTS）にもご注意ください

SFTSも、原因となるウイルスをもつマダニに咬まれることで感染する病気です。

SFTSや日本紅斑熱などのダニ媒介性感染症予防のためには、マダニに咬まれないことが重要です。



国立感染症研究所ホームページより